

口腔微生物学

講師	佐々木 祐子	実施時期 単位数	第1学年後期 1単位 (15時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。				
授業概要	歯科領域の二大疾患といわれるう蝕と歯周病の発症に関連深い口腔微生物について学習する。また、これらを踏まえて歯科治療と消毒法、滅菌法の意義を理解する。				
学習方法	パワーポイントを用いた講義				
成績評価の方法	定期試験(80%)および小テスト(20%)を総合的に評価する。詳細は初回講義時に説明する。				
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2「微生物学」第2版 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科疾患を理解する上で大切な科目です。授業内容を理解するだけでなく臨床に際して治療の意義を考える手引きにしてほしい。微生物学と総合的に講義を進めるので、便宜上予定の通りではないことがあるので注意すること。				
参考書	吉田眞一、柳雄介 編「戸田新細菌学」南山堂 その他、適宜紹介する。				
実務経験のある教員 (概要、科目との関連性)	歯科医院での勤務経験から、歯科疾患の予防や口腔衛生への理解を得るには口腔内微生物と疾患の関係を明快に説明できる能力が必須と考える。近い将来の臨床現場を意識させつつ、口腔微生物についての正しい知識を習得させる。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
1	口腔細菌叢	口腔常在微生物について概説できる。
2	プラーク、バイオフィーム	歯垢の形成機構、バイオフィーム感染症について概説できる。
3	う蝕	う蝕原因菌を概説できる。
4	歯内感染症	歯牙に関わる感染症について概説できる。
5	歯周病	歯周病原因菌を概説できる。
6	その他の口腔感染症	真菌やウイルスによる口腔感染症について概説できる。
7	微生物の培養・顕微鏡観察法、小テスト	微生物の培養法や顕微鏡観察法について概説できる。 歯科衛生士国家試験に類似した問題を解くことができる。